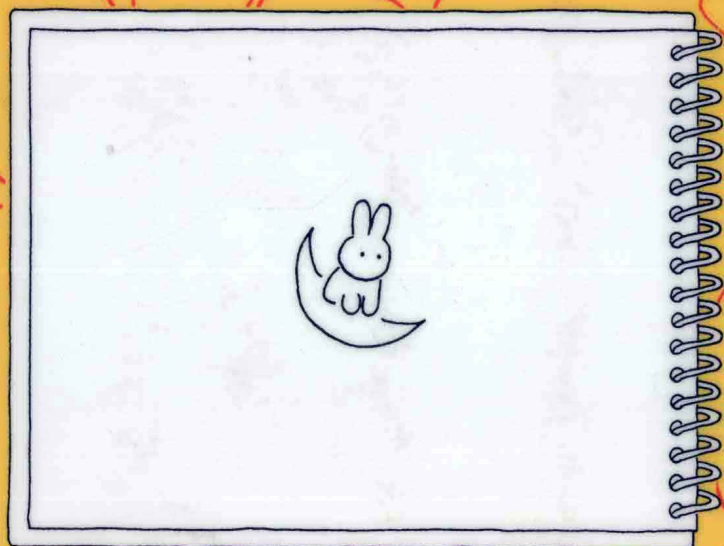


ISBN4-8431-0065-

発行 ユック舎



だっこはきもちいい——はくの育児絵日記

著者 横山文靖

1997年7月10日 第1刷発行

発行 ユック舎

東京都文京区湯島2-12-1

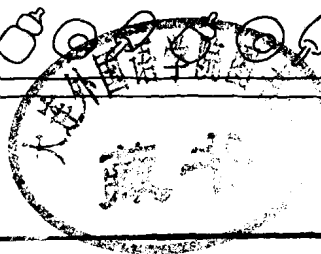
tel.03-3815-6549 fax.03-3815-6546

振替 00110-9-86349

印刷 エーヴィスシステムズ 製本 越後堂製本

ISBN4-8431-0065-X

©1997, Fumiyasu Yokoyama, Printed in Japan



日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

## まえがき

わが家は共働きです。夫婦で学校の先生をやっていて、ぼくが担当している教科は美術です。

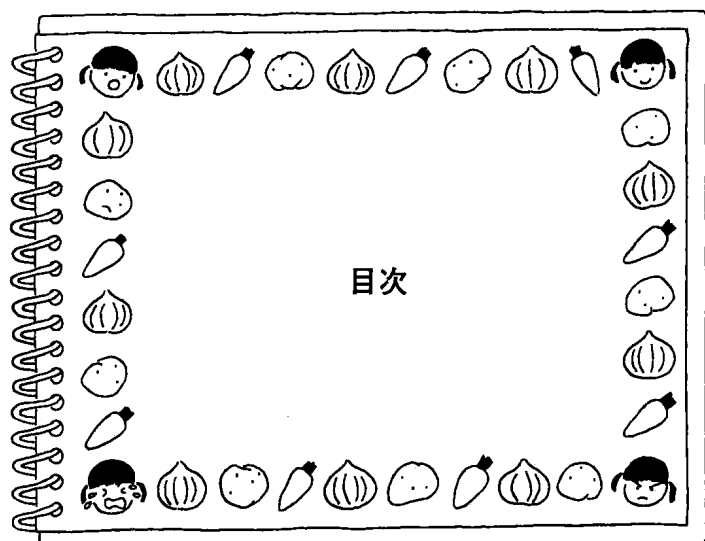
長女のみさとが生まれたのは1990年12月28日です。その時には妻のゆきこが、みさとの1歳の誕生日の前日まで育児休業を取りました。その頃は男性が育児休業を取ることはできませんでした。

その後、少しずつ世の中も変わり、二女のなつきが生まれた1994年11月7日までには、男性も育児休業が取れるように制度が変わっていました。

ぼくは後半の育児休業を自分が取りたいと、ゆきこに申し出ました。ぼくが大ざっぱな性格であることを一番よく知っているゆきこは、家事と育児を任せることをずいぶん不安に思ったようですが、いろいろ考えた末にOKを出しました。

年度の区切りをつけたほうがいいと思ったので、1995年3月末日まででゆきこの育児休業を終わりにして、4月1日からは替わってぼくが、なつきの1歳の誕生日の前日の11月6日まで、学校の仕事を休んで育児休業を取りました。

前半の「育児休業日記」は休業中の7か月と6日間の記録です。後半の「復帰後の日記」は仕事に復帰してからの記録です。



まえがき……2

## 育児休業日記

- 4月5日 初めての朝は起きるのがつらい……8  
4月9日 どうも料理はよくわからない……12  
4月10日 赤ちゃん休憩所はどこだ……14  
4月13日 うんちの怪事件……16  
4月25日 食品添加物について考えた日……18  
5月5日 包丁で指にけがをした……20  
5月11日 お葬式と赤ちゃん……22  
5月13日 花嫁さんの言葉……28  
6月6日 しろくまさんが飛び込んだ……30  
6月8日 洗濯物がピンク色に染まってるよ……33  
6月15日 赤ちゃんも公園が好き……34  
6月24日 いかん筆を忘れた……37  
6月26日 弟子になった小学生……38  
6月27日 ただ者ではない人がいる……42  
6月28日 絵にはルールが何もない……46  
7月11日 豚のない酢豚……50  
7月13日 にぼしの心……52  
7月19日 弟子に後光が差している……54  
夏休み……56  
9月7日 ぶどう拾い……58  
9月28日 赤ちゃんが歩いたよ……61  
10月2日 親子でひるね……62  
10月7日 どんぐりとぼうし……64  
10月19日 どうもぼくは育児に向いている……68  
11月2日 男にも母性が芽生える……72  
11月3日 ぼくがあひるを好きなわけ……74  
11月6日 きょうで育児休業も終わり……76

●おまけの漫画第I部……81

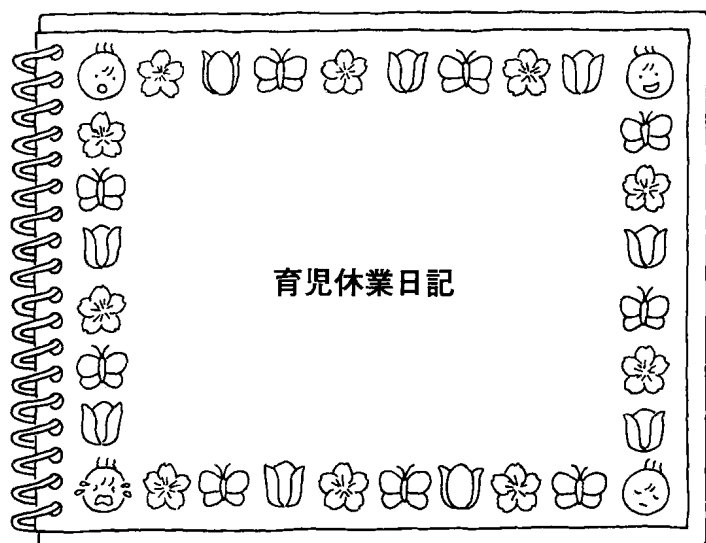
**復帰後の日記**

- 11月16日 子どもの看病で仕事を休む……86  
12月2日 ふくれっ面は直らない……90  
12月5日 遅刻をしてはいけない PART 1 ……94  
12月6日 遅刻をしてはいけない PART 2 ……98  
12月9日 いちょうの落葉……102  
12月17日 入場料……104  
12月19日 クレヨンが好き……105  
12月25日 月のうさへの手紙……106  
1月7日 おみくじとおさい銭……112  
1月14日 交換するよ……116  
1月21日 女の中に男が一人—子ども時代のぼく……118  
1月23日 本来そういうルールは何もない……122  
1月27日 どうしてこんなに不自由なのか……124  
1月28日 いちごの苗をふんでいるよ……125  
2月4日 小さな学者……126  
2月9日 育児の極意……128  
2月10日 牛さんどいてよ……131  
2月12日 こういう声には慣れてます……132  
3月29日 二重跳びができなかった頃……136  
4月3日 春の公園……140  
4月4日 桜……144

●おまけの漫画第II部……148

**解題・男だからこそ育児は楽しい** 森 絹江……153





育児休業日記

4月5日（水）

初  
め  
て  
の  
朝  
は  
起  
き  
る  
の  
が  
つ  
ら  
い

朝6時に目覚ましが鳴った。

きょうからゆきこが職場に復帰する。起きて朝食を作らなくては。けれども布団があたたかくて気持ちがいい。いつまでもくるまって寝ていたい。

台所は寒そうだ。ゆきこが8時に家を出るとして、それまでに着替えや授乳などの時間も含めて、遅くとも何時何分までに朝食ができていなくてはならないかを考える。作る手順をあれこれ思案して、最大限あと何分寝てられるか計算する。

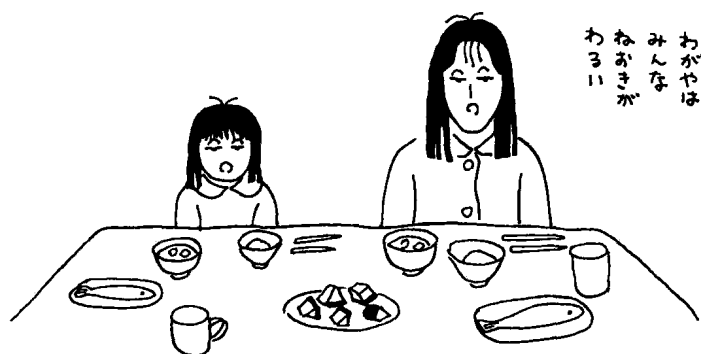
そんなことを考えているうちにだんだん頭がさえてはつきりしてくる。しかし体のほうは眠ったまま動かない。

6時30分。もうこれが限界と、思い切って自分の布団をはがす。台所へ降りてまずお湯を沸かす。すると大きいほうが出たくなった。トイレの時間を計算に入れるのを忘れていたことに気がついた。

トイレのあと風呂場へ行って残り湯をくみ、粉せっけんを溶かす。脱衣場には洗濯物が山積みだ。その中から汚れのひどいものとおねしょのものを選んで、第一回目の洗濯をする。

台所ではやかんがピーと音をたてて鳴っている。あわてて火を止める。そのようなばたばたした音でゆきこが目覚めます。なめこととうふのみそ汁、焼き魚、かぼちゃ、お茶漬ごはん、ぼくが作る朝食にしては豪勢だ。

7時5分。朝食が全部食卓に並ぶ。一日目はなんとか間に合った。しかし、ゆきこが朝食を目の前に放心状態になったまま動かない。5分、10分、15分と時間が経過する。これならもう少し寝ていても大丈夫だったようだ。



朝食のあと、二回目の洗濯をする。

ゆきこは、なつきに出勤前の授乳。

8時10分、ゆきこが出勤。

そのあとぼくは食器を洗い、洗濯物を干す。

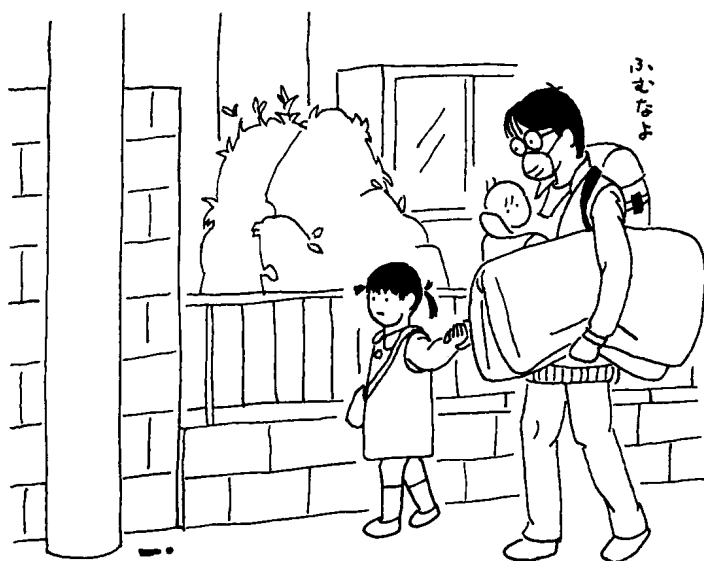
みさと（4歳）の保育所の準備。お昼寝用の布団上下、冷水タオルと手ふきタオル、お弁当のごはん、はし、フォーク、コップ、歯ブラシ、着替え一式とビニール袋二枚。忘れ物はない。

なつき（4か月）を抱っこバンドに入れる。最近、寝返りが打てるようになって、ごろごろ転がりどこへ行くのかわからない。一人で家に置いておくのは不安だ。ママコー

トを着て、保育所まで一緒に連れて行く。

荷物をリュックに詰めて、さあ行こうと思ったら、みさとの髪を結ぶのを忘れていた。くしを探すが見つからない。仕方なく手でとかす。なつきを前に抱っこしているうえ、みさともじっとしてないので上手に結べない。急がないと9時の登所時間に間に合わない。めちゃくちゃな結び方になったが「上手に結べたよ」と笑ってごまかす。どうせ鏡など見やしない。

靴を履いて外に出る。背中にリュック、おなかになつき、左手に布団、右手は車に向かって飛び出して行かないように、みさとの手をしっかりと握る。前後左右の四方全部がふさがっている。こんなのは生まれて初めてだ。おまけに鼻口まで花粉症用の防じんマスクでふさがっている。



保育所に着いてみると、新学期になって担任の先生が替わっていた。お部屋も替わり、新しいお友達も増えて、今までとはちょっと様子が違う。みさとの顔が緊張してこわばる。ぼくは新しい先生にあいさつをするために防じんマスクを外した。最初から気味悪がられてはいけない。荷物は点検したつもりだったが、上履きとパジャマを忘れていたことに気がついた。

きょうはお昼寝の前に迎えに行くことにした。あくしゅでバイバイバイをした時のみさとの目がちょっとうるんでいた。久しぶりに保育所に行くといつもこうなる。後ろ髪を引かれる思いで保育所をあとにする。ポケットを探ってみると花粉症用のマスクがない。あれをなくしたら大変な目にあう。保育所に戻ると、

「あっ、パパ戻ってきた」とみさとがこちらを指さしている。先生は不思議そうな顔でこちらを見ている。

「すみません、花粉症用のマスクを落としたみたいなので探しにきました」と言ったら、

「おとうさん、おでこについてますよ」と言われた。驚いておでこの上をさわってみると、確かにそこにあった。

「おもしろいパパだね」。先生はみさとにそう言った。もう一度、あくしゅでバイバイバイをして家に向かう。気がつくとなつきは寝ていた。

家に着いて、抱っこバンドを外し、そーっと布団に寝かせる。部屋を見まわすと衣類やおもちゃ、本や新聞などが散乱していて畳がほとんど見えない。きょうは片付けに一日かかりそうだ。絵は描けそうにない。

4月9日（日）



どうも  
料理はよく  
わからない

朝7時にみさとに起こされた。窓の外がやけに明るい。天気が良くて風が強く、花粉がたくさん飛びそうな恐ろしい日だ。

台所へ行って炊飯器をあけたが、中はからっぽだ。ゆうべ眠くなって米をとがずに寝てしまった。何かほかの食べ物はないかと台所の戸棚を探ったら、そばが出てきた。

干ししいたけとこんぶでだしをとり、しょう油と酒と砂糖を加え、つゆはまあまあの味にできた。そこにめんを入れる。ゆであがるまでのあいだに洗濯をする。脱衣場から台所に戻るとなんだか様子がおかしい。めんが全部くっついてしまって離れない。つゆが中華丼のようにどろどろになっている。これを食べ物と言えるだろうか。そこへゆきこがやって来た。「何作ってるの？」

「そばを作ろうと思ったらこうなった」と言ったら、「乾めんは、つゆとは別にお湯でゆでる。沸騰したお湯に入れて、入れたらすぐにかき混ぜないとめんとめんがくっついてしまう。ゆで汁は普通捨てる」と言われた。

どうも料理というのはよくわからない。基本というものがまず最初にあるらしい。自由が最初の前提にある絵の世界とはちょっと違う。絵ならば試行錯誤して失敗しても誰にも迷惑をかけないが、料理の場合は失敗すると家族に迷惑がかかる。幸い日曜日だったので、もう一度作り直すことができた。

きょうは野球を見に行く。春の県大会の初日だ。3月までぼくが担任していたクラスに野球部員が大勢いた。

みさとも見に行きたいと言うので連れて行く。みさとはいつもの通り、うさぎのぬいぐるみを手に持つ。

小田原で大雄山線という、単線で車両の短い電車に乗り換える。穴部という無人駅で降り、小高い丘の上まで歩いて行くと相洋高校の野球場があった。春なので桜やタンポポなどいろいろな花が咲いている。

試合が始まる頃、小雨が降り始めた。雨具を持ってこなかったのは不注意だった。みさとは野球にはまったく興味を示さず、そこいらを走り回っている。走るのに飽きたら今度はたんぽぽの花を摘み始めた。もしかしたら野球を見に行くということは、走ったり花を摘みに行くことだと思っているのかもしれない。小雨などまったく気にしてない。少々風邪気味なのであしたあたり熱を出すかもしれないが、育児休業中なので看病のためにどちらが仕事を休むかを心配なくていい。

試合は延長10回の裏、サヨナラ負け。みんな無念そうな顔をしていたが、その中で一人みさとだけが陽気な顔をしていた。

電車が茅ヶ崎に着いた時、みさとがぬいぐるみのうさぎをどこかに落としたことに気がついた。探しに戻るか聞いたら「戻らない」という返事だ。乗り物に酔ったようだ。夕食後、突然悲しみがこみ上げてきて「うさぎちゃんがない」とぼろぼろ涙を流して泣いた。泣いているうちに眠くなって寝てしまった。

4月10日（月）

赤ちゃん  
休憩所は  
どこだ

午前8時、保育所に電話を入れる。

「欠席連絡です。ぞう組のよこやまみさとの父ですが、きのう出かけた時に落としたぬいぐるみを探しに行くので、きょう一日お休みさせます」

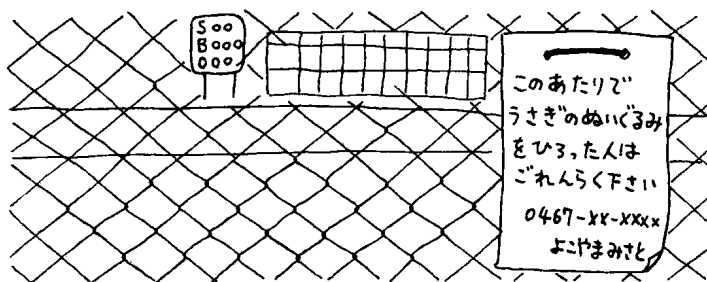
「あらそうですか、見つかるといいですね」

保育所の先生は子供たちの健康に気を配っているので、休む時には理由をちゃんと言ったほうがいだろう。

リュックに荷物を詰める。携帯用おしりふきとおむつ三枚、熱い湯とぬるい湯の入った水筒各一本、哺乳びん、スティックミルク四本、よだれふき三枚、ビニール袋、マジックと紙とひも、忘れ物はない。みさともなつきも鼻水をたらしているが、機嫌はいいので病人扱いしない。

おなかになつき、せなかにリュック、右手にみさと、きょうは左手が自由だ。きのうと同じく小田原で大雄山線に乗り換える。穴部で降りて、川沿いの道をしばらく歩く。すれ違った見知らぬおばさんが、こちらを見てにこにこしている。坂道を登って行く。今度はおばあさんがこちらを見て笑っている。こちらは歩いているだけなのだが……。

丘の上の球場に到着する。落としたのは外野の観客席のあたりだろうと思ったが、探しても見つからない。きのう歩いた所をくまなくもう一度歩いたがどこにもない。1時間ほどしてみさとが「おなかがすいたからお店に行きたい」と言ったので、搜索を打ち切った。



マジックで紙に書き、ひもで金網に結んで、球場をあとにした。帰りの大雄山線の中でなつきが急にきばり始め、「うーん」とうなった。もしやこれは。そのあとぶりぶり音がした。小田原に着いたらおむつを替える場所を探さなくてはならない。

改札を出て駅前をぐるりと見回す。駅前に丸井がある。ちょっと遠くに長崎屋がある。まず近いほうの丸井に行って売場案内図を見たが、赤ちゃん休憩所はなかった。次に長崎屋に行ったら見つかった。エスカレーターを登ってたどり着いた所は、なんとゲームコーナーのまん前だった。こんなピコピコビービーうるさい所で赤ちゃんが休まるわけがない。至急改善が望まれる。しかしおむつが替えられたので助かった。

家に着いたらすぐにみさとが寝た。たくさん歩いたので疲れたようだ。ミルクをやっているうちになつきも寝てしまった。顔を見るときょう一日でずいぶん日焼けしている。直射日光に当てたのがばれたら、またゆきこに叱られそうだ。二人の寝顔を見てたらこちらまで眠くなってきた。親子三人、川の字になって寝る。昼寝は気持ちがいい。